

令和3年度第6回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和3年9月15日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）

大西 秀典（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授）

澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）

大野 元（岐阜県産婦人科医会 理事）

石山 俊次（石山泌尿器科皮膚科）

オブザーバー : 小山 静代（岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長）

事 務 局 : 石塚 敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）

山田 涼子（感染症対策推進課 技師）

今尾 幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）

岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題 （進行：馬場委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項
- (4) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (5) その他（感染症対策推進課から）

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○本年増加がみられた小児科定点疾患の背景要因について

- ・現在市中で流行しているヘルパンギーナなどについて、「感染症かわら版」等による注意喚起や情報提供が必要と思われる。

○梅毒（特に早期顕症）における背景要因について（継続）

- ・本年度は、早期顕症報告数の男女比が著しく変化している。この変化が当県のみでみられるのか、他県でも同様なのかなど、さらに調査を行った方が良いと思う。

○基幹定点把握疾患の意義について（MRSA 感染症、PRSP 感染症、MDRP 感染症）

- ・基幹定点把握対象疾患について、その意義について再度確認した方が良いと思う。これら感染症の発生動向調査は、そのほかの市中で流行する感染症とは、その目的が異なる面がある。また、ペニシリン耐性肺炎球菌は、判定基準・報告基準などについて、整理して調査にあたる方が良いと思う。

○RS ウイルス感染症について

（事務局から）

- ・岐阜県内での流行は沈静化の様相を呈していますが、全国的にはいまだ流行中の県が複数あります。

（委員から）

- ・各県の流行状況の比較を、単に定点当たりの報告数で比較するのは注意が必要と思う。県あたりの小児科定点の数はそれなりに多いので偏りは少ないとも思うが、それでも指定された医療機関の状況によって報告数が変動する可能性はある。そのため、一概に各県を絶対数で比較するのはどうかと思う。むしろ流行状況の比較であれば、前週、前々週から連続した増加傾向が続いているかどうかなどを指標とし、それを比較した方が良いように思う。

○STD 定点の変更について

（事務局から）

- ・当県での参考とするため、近隣他県での STD 定点の選定方法などを調査しました。その結果、定点の配置については岐阜県と同様に、地域人口に応じた数を配置しているとのことでした。また、診療科の配分については、特に取り決めはないとのことでした。

（委員から）

- ・もう少し定点選定のためのデータを収集する必要があると思う。

【情報提供すべき事項】

- ・昨年と比較して増加がみられる感染症について
- ・秋に流行する感染症について（ツツガムシ病、など）

【情報提供（月番委員専門分野から）】

- ・第 36 回日本環境感染学会総会・学術集会（名古屋：9 月 19 日・20 日） <https://www.jsipc2021.org/>
- ・日本感染症学会中日本・西日本地方会、日本化学療法学会西日本支部総会合同学会（岐阜：11 月 5 日～7 日） <https://www.c-linkage.co.jp/wm-jcid2021/index.html>
- ・新型コロナウイルス感染症の体外診断用医薬品（検査キット）の承認情報について
-厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11331.html など

【その他（感染症対策推進課から）】

- ・季節性インフルエンザワクチンの供給について